

令和7年度 定期巡回・随時対応型訪問介護看護 サービス評価表

1. 事業所情報

事業所番号	1490900261	事業開始年月日	平成24年10月1日
法人名	株式会社 ゆい		
事業所名	定期巡回 ゆい港北		
事業所所在地	(223-0062)		
	横浜市港北区日吉本町1-27-37		
電話番号	045-560-3671	FAX番号	045-560-3670
施設等の区分	連携型	サービス提供地域	港北区
自己評価作成日	令和6年3月4日		

3. 法人・事業所の特徴

法人の特徴	<p>東急線・横浜市営地下鉄線「日吉駅」より徒歩3分の立地で、平成14年より都市型でありながら地域に密着したサービスを心がけて、訪問介護・居宅介護支援・福祉用具貸与・(看護)小規模多機能型居宅介護・認知症対応型共同生活介護・障がい者支援などのサービスを提供しています。</p> <p>法人理念として、「社会貢献」を掲げ、地域の方が住み慣れた場所での生活を継続できるよう、包括的に支援させていただきます。</p>
事業所の特徴	<p>24時間365日対応できるサービスとして、「ゆい」の中では必要不可欠な事業所であります。</p> <p>ケアマネージャーがケアプランを作成するにあたり、定額でありながら柔軟なサービス提供ができる定期巡回を利用することで、利用者様の生活リズムに応じた適切なサービスを見極めることができます。</p> <p>「その人らしく生きる」ために最善を尽くし、その一瞬を大切に支援させていただいております。</p>

2. 介護・医療連携推進会議

介護・医療連携推進会議への公表日	令和8年3月25日
開催場所	リモート開催

自己評価・外部評価 評価表

タイトル	項目番号	項目	自己評価				コメント	外部評価コメント
			実施状況					
			る で き て い	て ほ い ぼ る で き	が 多 い こ と い	で き い く な い で き		
I 構造評価 (Structure) [適切な事業運営]								
(1) 理念の明確化								
サービスの特徴を踏まえた理念の明確化	1	当該サービスの特徴である「利用者等の在宅生活の継続」と「心身の機能の維持回復」を実現するため、事業所独自の理念を掲げている	○				事業所独自の理念として、「その人らしく生きる～その一瞬を大切に～」と掲げている。当該サービスの特徴である在宅生活の継続において、可能な限りその人らしく生活ができるように常に考えながらサービスに向き合っている。理念と共に行動指針も見えるところに掲示している。	<p>理念の掲示により常に理念を意識して行動することができる環境が作れると思います。</p> <p>その方のこだわり、大切にしている事を同じように大切に考え、できる限りこれまで通りの生活や好きな事ができ、好きなものが食べられるように細かな部分まで尊重しケアを実践してくださっている。</p>
(2) 適切な人材の育成								

<p>専門技術の向上のための取り組み</p>	<p>2</p>	<p>管理者と職員は、当該サービスの特徴および事業所の理念について、その内容を十分に認識している</p>	<p>○</p>			<p>管理者と職員において24時間365日訪問対応・コール機を用いた随時訪問対応・身体状況に合わせた柔軟なサービス等を管理者及び職員が十分に理解し従事している。理念においても事業所内に提示して周知徹底している</p>	<p>理念の揭示により常に理念を意識して行動することができる環境が作れると思います。</p> <p>連絡体制が整備され、所内での情報共有がされている。</p>
	<p>3</p>	<p>運営者は、専門技術(アセスメント、随時対応時のオペレーターの判断能力など)の向上のため、職員を育成するための具体的な仕組みの構築や、法人内外の研修を受ける機会等を確保している</p>	<p>○</p>			<p>毎月、介護技術向上のため事業所内でミーティングを行い、介助方法について意見交換をして事業所全体の技術向上、個々のスキルアップを図っている。定期的に介護技術のチェックリスト用いて技術確認を行っている。法人外の研修として横浜市事業者連絡協議会(よこはま地域ネット24)主催のスキルアップ研修や事例検討会への参加で専門技術向上のための機会を確保した。</p>	<p>継続的な研修や技術向上の取り組みにより、職員の専門性を高めるとともに、利用者に対してより良い介護サービスの提供、技術向上の機会を広げていくことよう期待します。</p> <p>排泄ケアや保清介助等の身体介護の場面では、実際介護を受けている利用者からも「丁寧にやってもらっている」との言葉をいただいている。</p>

	<p>4 管理者は、サービス提供時の職員の配置等を検討する際、職員の能力が最大限に発揮され、能力開発が促されるよう配慮している</p>		○			<p>職員の能力が活かせるように利用者の特徴やサービス内容に合わせて配置している。技術向上や能力開発に関して、利用者との信頼関係構築するため、相互が理解できるまで先輩職員が同行しているが、家族様から接遇や技術面での指摘をうけることがあった</p>	<p>事業所内での定期的な技術共有に加え、外部研修にも参加されており、職員の専門性向上に向けた継続的な取り組みが行われていると考えます。</p> <p>同行、引継ぎについては行っているが、新しい方がお一人お一人のケアを覚えるまでには多少時間がかかるかと感じた。大変だとは思いますが、必要時には何度も同行する等していただき、利用者が安心してケアを受けられると良い。</p>
--	---	--	---	--	--	---	---

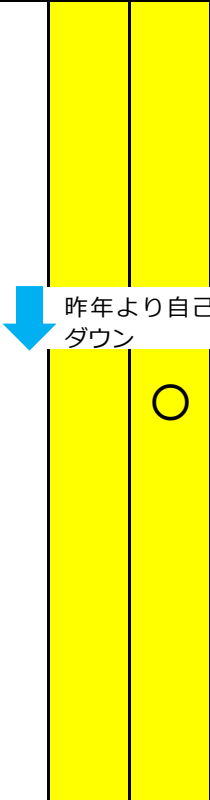
<p>介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保</p>	<p>5</p>	<p>介護職・看護職の間で、利用者等の特性・状況に係る相互の理解・認識の共有のための機会が、十分に確保されている</p>		<p>○</p>			<p>同一法人内の看護職とは、個人情報取り扱いに配慮した上でクラウドサービスによるタイムリーな情報共有、定期的な申し送りを実施している 外部の看護ステーションとは、電話や連絡ノートなどを利用して認識の共有を図っている</p>	<p>事業所内の看護職とはクラウドサービス等を活用し、適切な情報共有体制が整えられていると考えます。また、外部の訪問看護ステーションとも電話や連絡ノートを活用し、必要な連携が図られていると考えます。</p> <p>迅速に対応しなければならない事はCMを通さずに直接看護師とやり取りをし、後からCMに報告をいただいている。時間に猶予のあることはCMを通して看護師と情報共有している。事案によって連絡順序を変更する等し迅速かつ適切に対応していただいている。</p>
----------------------------------	----------	--	--	----------	--	--	--	--

(3) 適切な組織体制の構築							
組織マネジメントの取り組み	6	利用者等の特性に応じた柔軟なサービスを提供するため、最適且つ柔軟な人材配置(業務・シフトの工夫)を行っている		○ ↑ 昨年より自己評価アップ		<p>利用者の特性やサービス内容・時間帯に合わせて、職員の出勤時間を柔軟に調整している。職員の業務過多にならないように午後から出社、夜だけ出社、午前中のみ出社等工夫している。人員の確保ができており急な時間変更や曜日変更にも対応できている</p>	<p>利用者の特性やサービス内容に応じて職員の勤務時間を柔軟に調整するなど、業務負担にも配慮した体制づくりが図られていると考えます。また、急な時間変更や曜日変更にも対応できる体制が確保されていると考えます。</p> <p>時間変更や臨時の訪問の際も対応していただき、利用者の希望に沿ったケアが実践できている。</p>
介護・医療連携推進会議で得られた意見等の適切な反映	7	介護・医療連携推進会議を適時適切に開催すると共に、得られた要望、助言等(サービスの過少供給に対する指摘、改善策の提案等)を、サービスの提供等に適切に反映させている		○		<p>昨年度の運営推進会議の際に情報共有に関して、お互いの連絡が行き違いになってしまふがあるとの意見を頂き、それ以降電話が取れない場合はショートメールでのメッセージで内容を送るようにした。また、日中に事務員を配置してタイムリーに共有できるようになった。</p>	<p>運営推進会議での意見を踏まえ、連絡方法の見直しや事務員配置による情報共有体制の改善に取り組みされており、より円滑な連携に向けた工夫が図られていると考えます。</p> <p>電話、メール、FAX等連絡手段をその時々に応じて使い分け、連絡もスムーズに取れている。日中の事務員の対応があると直接管理者と連絡がつかなくても相談や依頼ができるため、助かっている。</p>

(4) 適切な情報提供・共有のための基盤整備								
利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備	8	利用者等の状況について、(個人情報管理に配慮した上で)必要に応じて関係者間で迅速に共有できるよう工夫されている	○				<p>日々の報告や情報は基本的にクラウド上で社内共有している 社外関係機関とのやり取りはメールやFAXを使うこともある。その際は個人が特定されないように配慮している</p>	<p>日々の情報共有をクラウド上で行うなど、組織内での共有体制が整えられていると考えます。また、外部機関とのやり取りにおいても個人情報の取り扱いに配慮した対応が図られていると考えます。</p> <p>細かな変更の多い利用者の情報共有には多少時間がかかってしまうこともあるため、家族との連携を密にする等他の手段も使って情報共有されている。</p>

(5) 安全管理の徹底							
職員の安全管理	9	サービス提供に係る職員の安全確保や災害時の緊急体制の構築等のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている(交通安全、夜間訪問時の防犯対策、災害時対応等)		○		業務継続計画(BCP)に沿ってサービス提供に係る職員の安全確保、災害時の緊急体制の構築を実施している。交通安全に関しては体調不良等運転に支障が出る場合は速やかに上長に報告するようにしている。夜間対応に関して、家族様と相談の上適切に対応している	<p>業務継続計画(BCP)に基づき、災害時の体制整備や職員の安全確保に取り組まれていると考えます。また、交通安全や夜間対応についても適切な配慮のもと運用されていると考えます。</p> <p>安全に訪問、ケアが行えることにより事業の継続ができると考えている。スタッフの方への負担軽減、やむを得ない事情の際のサービス変更やキャンセルについては、家族とも協力し適宜相談、実施していきたい。</p>
利用者等に係る安全管理	10	事業所において、利用者等に係る個人情報の適切な取り扱いと保護についての具体的な工夫が講じられているとともに、管理者や職員において共有されている		○		事業所内では鍵付き書庫にてファイル保管管理に努め、個人情報の記載のある書類やファイルの持ち出しは原則禁止としている。職員が短時間でも席を外す際は、ファイルを戻すように努めている。また、業務用クラウドソフト(カナミック)においても利用者情報を管理しているため、災害等でファイル消失があった場合でもデータでの管理・共有ができる体制となっている。速やかな情報共有に関してはラインワークスを利用して情報共有している	<p>個人情報を含む書類は鍵付き書庫で保管し、持ち出し制限や離席時の管理など、適切な情報管理に配慮した取り組みが行われていると考えます。</p> <p>利用者の個人情報保護について不安を感じたことはない。</p>

II 過程評価 (Process)							
1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供							
(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成							
利用者等の24時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からのアセスメントの実施	11	利用者等の一日の生活リズムに着目した、アセスメントが提案されている		○		1日の生活リズムは日に日に変化していくため、変化があった際は記録している。ご家族・本人・ケアマネジャー・看護と連携して情報収集し、記録と照らし合わせて提案している	<p>日々の生活リズムの変化を記録するとともに、本人・家族や関係職種と連携しながら情報共有を行い、状況に応じた提案につなげる取り組みが行われていると考えます。</p> <p>左記のとおり実践できている。細かな報告もいだけ、生活状況の把握や利用者の変化、意向の確認に役立っている。</p>

	<p>12 介護・看護の両面からのアセスメントが適切に実施され、両者の共有、つき合わせ等が行われている</p>	 <p>昨年より自己評価 ダウン</p>	<p>日々の共有はノートやFAX、ケアマネジャーを通して情報共有している。また定期的な看護のアセスメントに基づき身体状況の把握を行い、介護からの日々の生活状況を両者で共有している。時折情報共有をノートには記載するもフィードバックできていない時があった</p>	<p>ノートやFAX、ケアマネジャーを通じた情報共有に加え、看護のアセスメントを踏まえた身体状況の把握など、関係職種間での連携が図られていると考えます。情報共有の方法については、今後さらに円滑なフィードバックにつながる工夫が期待されます。</p> <p>複数のスタッフが関わるため、すべてのスタッフに正確に情報が伝わっていることが重要で、変化に迅速に対応する為の情報共有の方法の検討や、それに時間をあまりかけない工夫も必要と考える。ノートの記入は負担ではないかと感じる。</p>
--	---	---	---	---

利用者の心身の機能の維持回復や在宅生活の継続に軸足を置いた「未来志向型」の計画の作成	13	利用者の心身機能の維持回復に軸足を置いた計画の作成が志向されている				家族様及びケアマネジャー等関係職種と連携し日々の記録を含めて情報収集を行い、利用者の心身機能の維持回復を配慮した計画に努めている	<p>家族やケアマネジャー等の関係職種と連携し、日々の記録を含めた情報収集を行いながら、利用者の心身機能の維持・回復に配慮した支援計画の作成に努めていると考えます。</p> <p>状態に応じ、介助方法を変更する等して常にその時々状況に応じたケアを実践していただいている。</p>
	14	重度化しても医療依存度を高め過ぎないよう、利用者の今後の変化を予測し、先を見越した適切なリスク管理を実現するための、「未来志向型」の計画の作成が志向されている				日常の変化において、ケアマネジャーや看護等情報共有し、医療依存度を高めないようリスク管理できる計画となるよう努めている	<p>日常の変化についてケアマネジャーや看護等と情報共有を行いながら、状態の悪化や医療依存度の増大を防ぐためのリスク管理を意識した支援計画の作成に努めていると考えます。</p> <p>体調の変化はすぐにご報告いただき、医療との連携に役立っている。</p>

(2) 利用者等の状況変化への柔軟な対応と計画の見直し							
<p>計画上のサービス提供日時に限定されない、必要に応じた柔軟な定期巡回サービスの提供</p>	<p>15</p>	<p>計画上のサービス提供日時以外であっても、利用者等の状況に変化が生じた場合は、必要に応じて新たに定期巡回・随時対応サービスの提供日時を設定するなど、柔軟な運営に努めている</p>	<p>○</p>			<p>定期巡回・随時対応サービスの特性を活かし、ご本人の身体状況や取り巻く環境の変化に応じて訪問回数や時間を柔軟に変更し適切な運営に努めている</p>	<p>定期巡回・随時対応サービスの特性を活かし、本人の身体状況や生活環境の変化に応じて訪問回数や時間を柔軟に調整するなど、状況に応じた適切なサービス提供に努めていると考えます。</p> <p>急な変更にも柔軟に対応していただいている。</p>
<p>継続したモニタリングを通じた利用者等の状況変化の早期把握と、計画への適宜反映</p>	<p>16</p>	<p>サービス提供を通じた、継続的なモニタリングによる、利用者等の状況変化の早期把握と、計画への適宜反映が行われている</p>	<p>○</p>	<p>↑ 昨年より自己評価アップ</p>		<p>サービス提供を通じて、常にモニタリングの意識をもって実施しており、状況変化において都度関係部署に報告を行っている。</p>	<p>サービス提供を通じて継続的なモニタリングを行い、状況の変化については関係部署へ適宜報告するなど、情報共有と連携に努めていると考えます。</p> <p>何かあればすぐにご報告いただいている。</p>
(3) 介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供							

<p>介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供</p>	<p>17</p>	<p>より効率的・効果的なサービス提供を実現するため、介護職、看護職のそれぞれの専門性を活かした役割分担が行われている</p>	<p>○</p>			<p>介護職として、日々の生活における日常業務を担い、看護職は医療的な観点で利用者の状況把握に努めている。相互の情報共有に関してはノートやFAX等用いて情報共有している。</p>	<p>介護職と看護職がそれぞれの専門性を踏まえて利用者の状況把握に努めており、ノートやFAX等を活用した情報共有により相互の連携が図られていると考えます。</p> <p>御社の看護職との連携の経験なし。</p>
<p>看護職によるサービス提供に関する指導、助言</p>	<p>18</p>	<p>看護職から介護職に対し、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の維持回復などの観点から、指導、助言が行われている</p>	<p>○</p>			<p>看護職から医療的観点(体調変化・バイタル変化)の確認方法や助言や指導を受け心身の機能の維持回復・重度化防止に努めている</p>	<p>看護職から医療的観点による助言や指導を受けながら、体調やバイタルの変化の把握に努め、心身機能の維持・回復および重度化防止に向けた支援が図られていると考えます。</p> <p>外部の看護職との連携は図れている。看護職からの指示に応じ適切なケアをいただいている。</p>

(4) 利用者等との情報及び意識の共有							
利用者等に対する当該サービスの趣旨及び特徴等についての十分な情報提供	19	サービスの開始前に、利用者等に本サービスが「利用者等の在宅生活の継続」と「心身の機能の維持回復」を実現するためのサービスであり、訪問サービスは、その趣旨に沿って行われるアセスメントに基づき提供されることについて、十分な情報提供・説明が行われている		○		サービス導入前に利用者・家族様には在宅生活の継続と心身の機能の回復維持を実現するサービスであり、アセスメントに基づきサービスが展開されること説明している。サービス内容に関しては齟齬がないように慎重に確認しながら説明と同意をもらっている	<p>サービス導入前に利用者・家族へ目的や内容について丁寧に説明し、アセスメントに基づくサービス提供であることを共有した上で、内容に齟齬が生じないように確認しながら同意を得ていると考えます。</p> <p>サービス内容の検討については細かな部分まで最初に打ち合わせをしてからサービス開始していただいている。</p>
利用者等との目標及び計画の共有と、適時適切な情報の提供	20	作成した計画の目標及びその内容について、利用者等に十分な説明を行うなど、共通の認識を得るための努力がされている		○		契約書の締結時と計画書作成してサインをもらう際に在宅生活の継続と心身の機能回復維持を目的として作成したものと説明して理解してもらえるように努めている	<p>契約書の締結時や計画書の説明時に、在宅生活の継続と心身機能の回復・維持を目的とした支援であることを説明し、利用者・家族の理解を得られるよう努めていると考えます。</p> <p>左記に関して特に家族から疑問や質問等受けたことはない。</p>

	<p>21 利用者の状況の変化や、それに伴うサービス提供の変化等について、家族等への適時・適切な報告・相談等が行われている</p>		○			<p>ご家族様に関しては、状況の変化に伴いすぐに報告して対応や相談に努めている。関係職種に関しては、ノートやFAXで対応し早急に確認したいことは電話で協力体制を図っている</p>	<p>家族には状況の変化に応じて速やかに報告・相談を行い、関係職種とはノートやFAX、必要時には電話を活用するなど、連携体制の確保に努めていると考えます。</p> <p>家族と相談すべきことは直接相談していただき、結果を報告いただいている。</p>
--	---	--	---	--	--	---	--

2. 多職種連携に基づいた包括的・継続的マネジメント							
(1) 共同ケアマネジメントの実践							
利用者等の状況の変化についての、ケアマネジャーとの適切な情報共有及びケアプランへの積極的な提案	22	ケアマネジャーとの間で、利用者へのサービス提供状況、心身の機能の変化、周辺環境の変化等に係る情報が共有され、サービスの提供日時等が共同で決められている		○		<p>利用者の提供状況や状態変化においては、電話連絡・FAX等、社内においてはクラウドサービス等のツールで情報交換を行っており、その際にサービスの増減や時間等を相談できている。</p>	<p>利用者の提供状況や状態変化について、電話やFAX、社内ではクラウドサービス等を活用して情報交換を行い、サービス内容や時間の調整について関係者間で相談できる体制が図られていると考えます。</p> <p>情報共有はこまめに行っており、状況確認やケアプラン立案には役立っている。</p>
	23	計画の目標達成のために、必要に応じて、ケアプランへの積極的な提案(地域内のフォーマル・インフォーマルサービスの活用等を含む)が行われている		○		<p>計画の目標達成に向けて利用者の状況や状態の変化に応じてケアマネジャーへの報告、提案(サービス提供回数の変更、デイサービス、ふれあい収集、配食サービス利用の提案等)を行うよう心掛けている</p>	<p>利用者の状況や状態の変化に応じてケアマネジャーへ報告や提案を行い、サービス提供回数の調整や他サービスの活用など、目標達成に向けた支援につなげるよう努めていると考えます。</p> <p>必要に応じて、様々な社会資源の提案をいただき、その都度検討が行えている。</p>

<p>定期的なアセスメント結果や目標の達成状況等に関する、多職種への積極的な情報提供</p>	<p>24</p>	<p>サービス担当者会議等の場を通じて、利用者等の状況や計画目標の達成状況について、多職種への情報提供が行われている</p>		<p>○</p>			<p>当該サービスにおいて多職種に情報提供し、目標の達成状況や次回からの課題を互いに意見交換できている。</p>	<p>当該サービスに関する情報を多職種間で共有し、目標の達成状況や今後の課題について意見交換が行える体制が図られていると考えます。</p> <p>新たな生活の課題等について情報共有し検討できている。</p>
<p>(2) 多職種連携を通じた包括的・継続的マネジメントへの貢献</p>								
<p>利用者の在宅生活の継続に必要となる、利用者等に対する包括的なサポートについての、多職種による検討</p>	<p>25</p>	<p>利用者の在宅生活の継続に必要な、包括的なサポート(保険外サービス、インフォーマルケア等の活用を含む)について、必要に応じて多職種による検討が行われている(※任意評価項目)</p>		<p>○</p>			<p>利用者の生活環境や特性・経済状況等を考慮して、担当者会議等で多職種に相談している。また、病院の付き添い・ふれあい収集・配食サービス等の打診をしている。</p>	<p>利用者の生活環境や特性、経済状況等を踏まえ、担当者会議等で多職種と相談しながら、通院付き添いや配食サービス等の社会資源の活用について検討していると考えます。</p> <p>適宜、他のサービスや行政サービス等幅広い社会資源についてともに考えることができていると感じている。</p>

	<p>26 病院・施設への入院・入所、及び病院・施設からの退院・退所の際などに、切れ目のない介護・看護サービスを提供するために、必要に応じて多職種による検討や情報の共有が行われている(※任意評価項目)</p>		○		<p>病院・施設の入院・入所に関しては、適宜共有するように努めている。退所・退院前のカンファレンスには可能な限り出席するように努め、在宅生活がスムーズに行える体制がとれている。</p>	<p>入院・入所に関する情報共有に努めるとともに、退院・退所前のカンファレンスにも可能な限り参加し、在宅生活へ円滑に移行できる体制づくりが図られていると考えます。</p> <p>退院前のカンファレンスに出席いただき、自宅に戻ってからの具体的なケアについて退院前にチームで検討・共有することができている。</p>
<p>多職種による効果的な役割分担及び連携に係る検討と、必要に応じた関係者等への積極的な提案</p>	<p>27 地域における利用者の在宅生活の継続に必要となる、包括的なサポート体制を構築するため、多職種による効果的な役割分担や連携方策等について検討し、共有がされている(※任意評価項目)</p>		○		<p>利用者に対して在宅生活における包括的なサポート体制は構築できている。また多職種による各所の役割分担は明確になっているものの、会議以外での多職種による課題についての提案が希薄になっていることが今後の課題と感じている</p>	<p>在宅生活を支える包括的な支援体制が構築され、多職種間の役割分担も整理されていると考えます。一方で、会議以外の場面での多職種による課題提案については、今後さらに活性化が期待されます。</p> <p>時間的な余裕もないため、チームで情報共有や提案がしやすいコミュニケーションツールがあると良い。</p>

3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画						
(1) 地域への積極的な情報発信及び提案						
介護・医療連携推進会議の記録や、サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信	28	介護・医療連携推進会議の記録について、誰でも見ることのできるような方法での情報発信が、迅速に行われている				<p>当社ホームページで介護・医療連携推進会議の記録を掲載しており、迅速な情報発信ができています。</p> <p>自社ホームページを活用して介護・医療連携推進会議の記録を掲載するなど、関係者や地域に向けた情報発信に取り組まれていると考えます。</p> <p>左記のとおり。</p>
	29	当該サービスの概要や効果等についての、地域における正しい理解を広めるため、積極的な広報周知が行われている				<p>地域包括支援センターや居宅介護支援事業所等に訪問した際に、パンフレットを配布し案内をしている。それ以外にも、定期巡回のメリット・デメリットを説明しながら正しい理解を得られる広報活動を行った。また、港北区の定期巡回事業所で情報交換する交流会を開催しており、今後、定期巡回の周知に関して話し合っていく予定になっている。</p> <p>地域包括支援センターや居宅介護支援事業所への訪問時にパンフレット配布等を行い、定期巡回サービスの理解促進に向けた広報活動に取り組まれていると考えます。また、区内事業所との交流会を通じて情報交換を行うなど、今後の周知に向けた取り組みも進められていると考えます。</p> <p>今後の情報発信に期待したい。</p>
(2) まちづくりへの参画						

<p>行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解</p>	<p>30</p>	<p>行政が介護保険事業計画等で掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について十分に理解している</p>		<p>○</p>			<p>地域包括ケアシステムの構築に向けた港北区・都築区の取り組み(港北区・都築区アクションプラン)の内容を横浜市HPより公開されている資料を印刷し、いつでも閲覧できるように職員に理解周知している</p>	<p>横浜市ホームページで公開されている港北区・都築区のアクションプランを職員が閲覧できるようにするなど、地域包括ケアシステムの方向性について職員への周知と理解促進に努めていると考えます。</p> <p>左記の方法で周知されているとのこと、今後も継続していただきたい。</p>
<p>サービス提供における、地域への展開</p>	<p>31</p>	<p>サービスの提供エリアについて、特定の建物等に限定せず、地域へ広く展開していくことが志向されている</p>		<p>○</p>			<p>現在においても地元へ根差した事業所であり、日吉エリアを主としてサービスを展開している。</p>	<p>介護・医療連携推進会議において事例紹介を行うなどサービス理解の促進に努めるとともに、地域のネットワークや研修へ参加し、地域における介護・看護の課題把握に取り組まれていると考えます。</p> <p>地域でも知名度があり、「車を良く見かける」と利用者から言われ、そのことでも安心感につながっている様子が見受けられることがこれまでに何度かあった。</p>

<p>安心して暮らせるまちづくりに向けた、積極的な課題提起、改善策の提案等</p>	<p>32</p>	<p>当該サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、介護・看護の観点から、まちづくりに係る問題認識を広い関係者間で共有し、必要に応じて具体的な課題提起、改善策の提案等（保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等）が行われている（※任意評価項目）</p>		<p>○</p>			<p>当該サービスにおいて介護医療連携推進会議の場では、事例などを通じて知ってもらうように心がけている。また、港北区高齢者ネットワークへや港北区医師会が主催する研修に参加し、地域における介護・看護の課題把握に努めた</p>	<p>介護・医療連携推進会議において事例紹介等を行いサービスへの理解促進に努めるとともに、地域のネットワークや医師会主催の研修へ参加するなど、地域における介護・医療の課題把握に取り組まれていると考えます。</p> <p>具体的な事例や地域課題について事業所間でも共有し、解決に向け協働できると良い。</p>
---	-----------	--	--	----------	--	--	---	---

Ⅲ 結果評価 (Outcome)							
サービス導入後の利用者の変化	33	サービスの導入により、利用者ごとの計画目標の達成が図られている		○		<p>日々、状態変化に合わせ当該サービスの特性を活かした柔軟な対応や回数や時間の増減を行って利用者にとって適正なサービスが行えている。計画目標において達成され在宅生活に繋がっている</p>	<p>利用者の状態変化に応じて、サービスの特性を活かした訪問回数や時間の調整を行うなど、状況に応じた柔軟なサービス提供に努めていると考えます。また、計画目標の達成を通じて在宅生活の継続につながっていると考えます。</p> <p>毎月報告書をいただき、達成状況を確認できている。</p>
在宅生活の継続に対する安心感	34	サービスの導入により、利用者等において、在宅生活の継続に対する安心感が得られている		○		<p>24時間体制での包括的な支援を提供できるため、何かあった場合でもいつでも繋がっている。また、状況に応じてサービスを柔軟に変更でき一時的にサービスを増やすことも可能としている所も安心感として提供できている</p>	<p>24時間体制で包括的な支援を提供することで、緊急時にも相談・対応できる体制が確保されていると考えます。また、状況に応じてサービス内容を柔軟に調整できる点も、利用者や家族の安心感につながっていると考えます。</p> <p>困った時に来てくれる人がいることは利用者本人、家族にとって大きな安心につながっていると感じる。</p>